

(令和3年度自己評価公表シート)

1. 本園の教育目標

「強く、正しく、美しく」を建学の精神とし、「基本的生活習慣を身につけ、たくましい心身や思いやりの心を育て、よく考えて行動できる子どもを育成する」を教育の目標として日々の保育に取り組む。

幼児期にふさわしい生活が送れるよう、異年齢交流や自然観察の機会を多く取り入れ、直接的な体験学習をし、伸び伸びと「自主・協力・創造」する力を培う保育を展開する幼児教育を目指している。

2. 本年度に重点的に取り組む目標や計画

自己点検・自己評価を行い、下記の点について重点的に取り組む

- 1、感染症対策を講じながら、保育を止めず行えるよう、計画実施をする。
- 2、教師が客観的に保育を振り返り、保育に必要なスキルアップに努める。
- 3、子どもが主体的に過ごせる保育内容を構築し、充実感を味わえるようにする。
- 4、就学までに育てたい子どもの姿を明確にし、たてよこのつながりを大切に教職員間で共有する。
- 5、魅力ある園づくりのための環境構成と情報発信を行う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
ア、信頼される教師になる	コロナ禍で参観や保護者の方と対面する機会や感染の不安で欠席される方とのコミュニケーションツールとして、配信などを使用したり、直接対話機会を設け保育を伝えるようにしていた。 個人には、ポートフォリオで成長を伝えて、共通理解を図れているが、更にもう一步踏み込んで伝え方を工夫し、さらなる信頼度をつかみたい。
イ、情報発信	保護者に対しては、今年度も配信を利用し、園での様子を伝えるようにしている。外部への魅力や園の特色の情報の発信が少ないので、ホームページや掲示板を利用したり、配信の頻度を上げたり、情報発信を工夫して、魅力ある園のアピールができるように努める。
ウ、チーム保育の機会を多く持ち、人間関係の構築を図る	教員同士、他学年へ関わる機会が増え、成長の違いに気づくことができた。これにより共通理解が図れ、チームや学年のたてよこの良いところを継続し、職員間でもっと話し合い、あそびの内容の研鑽に努め、機会を増やしていく。

エ、教師のスキルアップ	オンラインや園内研修を利用し、実技にとどまらず、カウンセリングマインドや子どもの成長、自然観察など全員周知でスキルアップに努めた。コロナ禍でも保育を止めず保育実践が行えた。
オ、子どもの自主性を伸ばせる活動の充実	コーナーづくりを工夫したり、自由に選択できる機会を多く設定したり、行事を減らすことで、子ども自身が体験したことを伝えあう力が育ち、充実感を味わっていた。
カ、子育て支援の充実	親子教室や園庭開放の回数を増やした。今後、未就園児やその親の興味や悩みについて外部研修を受け、さらなる未就園児の発達の理解、あそびの研鑽に努める。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>コロナ禍で休園もあったが、保育を止めることなく行えた。いろいろな家庭事情がある中、一人ひとりに配慮した保育を行い、園児や保護者へ寄り添えるように務めた。また、直接対面の機会が減っているため、園の魅力が十分に伝わっているかは、把握ができていないため情報収集や魅力の伝え方への工夫が、今後必要である。</p> <p>たてわり活動の機会はあるものの十分な時間が取れずにいた。継続的な保育ができるよう時間の確保を行うよう努める。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
未就園児保育のスキルアップ	就園前の子どもたちの成長について乳幼児期施設と連携し、見学体験などを通して学び直しを行う。
危機管理能力のアップ	事故や怪我の報告をまとめ安全意識のスキルアップに努める。

6. 学校関係者の評価

<p>課題としては、ほぼ達成できているとの評価だった。</p> <p>コロナ禍でも、行事等どうすれば開催できるか工夫する園の対応が見えて良かった。たてわり活動では、心の成長が大きく見えた。動画配信や園から細やかな連絡があったりするが、情報発信として、HP更新の頻度をあげ、園の中の様子を発信してほしい。</p>

7. 財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。
